



小松市ゼロカーボンシティ宣言

～100年後の小松に残したい自然がある、伝えたい文化がある～

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、世界各地で記録的な高温、大雨、大規模な干ばつ等の異常気象が多発しています。日本においても、過去に経験したことがないような集中豪雨や猛暑等が頻発しており、今後さらに災害等のリスクが高まると予測されています。また、気候の激変は、四季折々の豊かな風土にも影響を与えかねません。

2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロとすることが必要」とされています。

日本においては、2020年10月に政府が「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、2021年4月には地球温暖化対策推進本部にて2030年度までの温室効果ガス排出削減目標を2013年度比46%削減とすることが発表されました。

このような中、小松市においても、先達から受け継がれてきたふるさと小松の自然と文化を100年後の未来に引き継ぎ、また、その思いを未来に生きる子どもたちにも受け継いでいくため、市民・事業者・市が協働して脱炭素に積極的に取り組むことが不可欠です。

小松市は、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言します。

令和3（2021）年8月25日

小松市長 宮橋 勝栄